



Data 2022-126

監督・脚本：邢文雄（シン・ウェン ション）

出演：馬麗（マー・リー）／魏翔（ウェイ・シャン）／陳明昊（チエン・ミンハオ）／周大勇（チヨウ・ダーヨン）／黃才倫（ホアン・ツァイルン）

👁️👁️ みどころ

2022年のNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の脚本を書いた三谷幸喜の『ザ・マジックアワー』（08年）は中国でも大人気らしい。

“伝説の殺し屋”は日本だけでなく、中国にだって！そんな思いで、原題も邦題も興味深いうえ、ストーリー仕立てがめちゃ面白い本作が誕生！

コメディといえば山田洋次監督だが、そこでは涙の要素も不可欠！しかし、万年エキストラから突然主役に抜擢された主人公・魏が見せる、本作の劇中劇の展開は如何に？笑いがタツプリなら、涙も少し……。そんな名作をしっかり堪能しよう。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■「2022大阪・中国映画週間」が開催！■□■

11月11日から、「中日国交正常化50周年記念 大きな軌跡 小さな奇跡」と題する、「2022大阪・中国映画週間」がウェスティンホテル大阪で開催された。1980年代に世界に発信された、張藝謀監督の『紅いコーリャン』（87年）、陳凱歌監督の『黄色い大地』（84年）をはじめとする中国映画が日本に入ってきたのは90年代。田中角栄と周恩来の握手に象徴される1972年の日中国交正常化以降、日中の映画交流が進み、東京では2007年から毎年「東京・中国映画週間」が開催されてきた。しかし、「大阪アジア映画祭」や「おおさかシネマフェスティバル」のある大阪では、今回が初開催だ。中華人民共和国駐大阪総領事館の主催、中国駐大阪観光代表処の共催、外務省、大阪府、NPO法人大阪府日中友好協会等の後援だが、その尽力者は総領事の薛剣さんと長年、NPO法人日中映画祭実行委員会・理事長として活動してきた耿忠さんの2人。

初日の開幕式では、総領事の薛剣さんの挨拶と「中日国交正常化50周年記念 2022大阪・中国映画週間の記念映像」（約10分）の上映後、耿忠さんの司会で中国映画界と

深い繋がりがあがる、『おくりびと』（08年）『シネマ21』（156頁）で有名な映画監督・滝田洋二郎氏と中国映画に詳しい大阪の弁護士兼映画評論家として、私が中国映画の魅力について語り合った。

TOHO シネマズ梅田アネックスで上映された中国映画は次の8本。私は、開幕式翌日の11月12日に『トゥ・クール・トゥ・キル』（22年）と『宇宙から来たモーツァルト』（22年）を鑑賞！

2022 大阪・中国映画週間

2022 China Film Week In Osaka



大阪・中国映画週間

～開幕式&レセプション～

期間：11月11日（金）
15:00-16:00（第一部・開幕式）
16:10-17:30（第二部・レセプション）
場所：ウェスティンホテル大阪 ローズルーム
※開幕式へのご参加は事前招待客のみ



奇跡の眺め

奇跡・笨小孩 (2022)

監督：文牧野
脚本：周楚岑/修夢迪/文牧野/韓曉邯/鍾偉
キャスト：易烊千璽/田雨/陳哈琳/賈冰/公磊
ジャンル：ヒューマンドラマ
上映時間：106分

🕒 上映時間
11月13日(日) 16:50



トゥ・クール・トゥ・キル

这个杀手不太冷静 (2022)

監督：邢文雄
脚本：邢文雄
キャスト：馬麗/魏翔/陳明昊/周大勇/黃才倫
ジャンル：コメディ
上映時間：109分

🕒 上映時間
11月12日(土)16:50 11月15日(火)19:20



月で始まるソロライブ

独行月球 (2022)

監督：羅暎魚
脚本：羅暎魚/饒鳳光/觀思典/沈雨悅
キャスト：沈騰/馬麗/常遠/李誠儒/黃才倫
陳月洋子/黃子茹
ジャンル：コメディ/SF 上映時間：122分

🕒 上映時間
11月11日(金)17:10 11月13日(日)19:20



宇宙から来たモーツァルト

外太空的莫扎特 (2022)

監督：陳思誠
脚本：陳思誠/陳思宇/範凱華/金耀波
唐紅蓮/楊木子
キャスト：黃渤/宋佳/魏晨/范偉/黃渤/魏晨
ジャンル：コメディ/SF/ファミリー 上映時間：136分

🕒 上映時間
11月12日(土)19:20 11月17日(木)19:20



母への挨拶

带你去见我妈 (2022)

監督：藍鴻春
脚本：鄧翔奇/藍鴻春/楊冷/郭廷岳
キャスト：鄧翔奇/羅少賢/盧禹/鄧曉生/連錫龍
ジャンル：コメディ/ラブストーリー/ファミリー
上映時間：100分

🕒 上映時間
11月16日(水) 19:20



片恋 ~マイブルーサマー~

暗恋・橘生淮南 (2022)

監督：黃斌
脚本：黃斌/付丹迪/仇晨/李思意/八月长安
キャスト：張雪迎/辛雲來/伍嘉成/劉琳/陳月洋子
ジャンル：ラブストーリー
上映時間：102分

🕒 上映時間
11月14日(月) 19:20



濟公 SAI・KOU ~天地降臨~

濟公之降龍降世 (2021)

監督：劉志江
脚本：張挺/孫武
キャスト：朱嬌/白文顯/李燦/溫豪/楊帆
ジャンル：アニメーション/ファンタジー/冒険
上映時間：93分

🕒 上映時間
11月14日(月) 16:50



天書奇譚 4K 記念版

天書奇譚 4K 記念版 (2021)

監督：王樹忱/孫澤運
脚本：包蕾/王樹忱
キャスト：卒克/丁建華
ジャンル：アニメーション
上映時間：100分

🕒 上映時間
11月15日(火) 16:50

■ 上映期間：2022年11月11日（金）～11月17日（木）
■ 上映会場：TOHOシネマズ梅田アネックス SCREEN9、10
■ アクセス：大阪市北区角田町 5-1

■ チケット販売：金額 1,500 円（税込）
10月29日（土）より発売開始
■ 問い合わせ：中華人民共和國駐大阪総領事館
TEL: 06-6446-9481 E-mail: osaka_consulate@hotmail.com



■□■「スナイパーもの」「殺し屋モノ」は面白い！本作は？■□■

「スナイパーもの」は面白い。それは、『ジャッカルの日』（73年）を見ても、『山猫は眠らない』（92年）シリーズを見ても、さらにチャン・イーモウ監督の『狙撃手』（22年）（『シネマ50』200頁）を見てもよくわかる。それと同じように「殺し屋モノ」も面白い！本作冒頭、ヤクザのボスAがスナイパーに狙われるシークエンスが登場する。しかし、そこでは、辛うじて弾が逸れたため耳を傷つけただけで失敗。そのため、スナイパーは捕まってしまったからアレレ……。本作は「スナイパーもの」ではなかったの？

「スナイパーもの」と類似のジャンルに「殺し屋モノ」があるが、『这个杀手不太冷静』（直訳すれば「この殺し屋はあまり冷静ではない」という原題をみると、本作はまさにその「殺し屋モノ」らしい。「俺を狙ったのは、伝説の殺し屋X」。そんな情報を得たAは、映画監督のBと、その姉でAが結婚を望んでいる美人女優のミラン（馬麗）に対して、何が何でも「Xを連れてこい！」と命じたが、そんなこと言われても……？

もっとも、Xは名前は有名だが、顔は誰にも知られていないらしい。ならば、あの万年エキストラのバカ俳優（？）、魏成功（魏翔）をX役に起用すれば……。ミランはそんなアイデアを思いついたが、それをいかに魏に納得させ、演出していくかはB監督の腕前だ。しかして、B監督が魏に対する演出説明と演技指導の殺し文句は、「カメラを全て隠す！お前は自由に演じる！」ということだが、それってホント？“豚もおだてりゃ木に登る”そうだが、さて本作にみる魏は？

■□■劇中劇は面白い！素材になった映画は？■□■

劇中劇は面白い！それが私の持論だが、その理由は三谷幸喜映画である『笑の大学』（04年）（『シネマ6』249頁）や『恋に落ちたシェイクスピア』（98年）、『王の男』（05年）（『シネマ12』312頁）、『キネマの神様』（21年）（『シネマ49』187頁）等を見れば、よくわかる。「2022大阪・中国映画週間」で上映された本作は、邢文雄（シン・ウェンション）監督が尊敬している三谷幸喜監督・脚本による『ザ・マジックアワー』（08年）（『シネマ20』342頁）を素材にしたものだ。『ザ・マジックアワー』には、「だます男」（妻夫木聡）、「だまされる男」（佐藤浩市）、「惑わす女」（深津絵里）が登場し、ミナト横浜ならぬ港町・守加護を舞台として物語が展開した。そのストーリー構成のキーマンは「伝説の殺し屋」デラ富樫で、彼の正体はいかに？が大きなテーマだった。

本作冒頭、B監督演出による撮影現場で、エキストラの魏が過剰演技を続発して呆れさせるシーンが登場するが、それは何よりも彼の映画愛、俳優魂がなせる技。したがって、そんな男を思い切って主役に抜擢すれば、ひょっとして大化けするのでは？それが女優として大成しているミランの考えだが、導入部に続く本作最初のメインストーリーでは、そんな魏の殺し屋Xになり切った見事な過剰演技に注目！

B監督を心から尊敬している魏は、BとミランからギャングのボスAに対して紹介された後、密かに「アクション！」の声をかけられると、殺し屋Xになり切った演技を披露す

る。それがオーバーアクションになったのは止むを得ないが、その迫真の演技(?)によってAは圧倒され、B監督とミランの計画は大成功!なるほど、劇中劇は面白い!

■□■魏の最初の任務は?奇妙な通訳からトンデモ事態に!■□■

まんまとAの仲間に入った魏に対して最初に与えられた任務は、イタリアのマフィアとのマシンガンの取引。さあ、魏はいかにその大役を実行するの?幸い魏はイタリア語を喋ることができるそうだから、魏の役割は通訳だ。そんな設定はちょっと出来過ぎだが、それにしてもこの脚本はお見事!魏の奇妙な通訳に、観客席からはあちこちでクスクスと笑い声が・・・。

通訳が難しいのは、つい先日、相次いで行われたバイデン大統領 VS 習近平国家主席の米中首脳会談や、岸田文雄首相 VS 習近平国家主席の日中首脳会談を見ればわかる。ひとつ通訳を間違えて誤解を生めば、大変な事になるのは当然だ。しかして、本作では魏が演じる奇妙奇天烈な通訳によって、それが現実になるから、それにしっかり注目!

イタリアマフィアからAへ渡されるマシンガンと、Aからマフィアに渡される現金は3人の目の前のテーブルで同時に交換。当然それが原則だが、通訳上の誤解が誤解を生み、互いの疑心暗鬼が広がる中、ついにイタリアマフィアの銃が発砲!これにて両組織が入り乱れての銃の乱射戦になったが、そこで俄然威力を発揮したのが、魏が手にしたマシンガンだ。文字通り仁王立ちになっての、その乱射ぶりはお見事!ちなみに、こんなシークエンスは日本人なら誰でも既視感がある。それは、薬師丸ひろ子が主演した『セーラー服と機関銃』(81年)の1シーンだから、私たちは思わずここで「カ・イ・カ・ン!」と叫んでしまいそうに・・・。

これにてマフィアは退散したが、マシンガンの乱射による建物の損壊はひどいもの。それにしても、こんなシークエンスをどうやってB監督は撮影したの?カメラはどこに隠していたの?普通の撮影現場では直ちにそのチェックがされるはず。興奮冷めやらぬ魏は、当然それをB監督に求めたが・・・。

■□■晴れの姿を両親に!化けの皮が剥げるのはいつ?■□■

B監督の演出、魏の主演!ギャングのボスA他、多勢の共演による、脚本隠し、カメラ隠しの映画撮影は順調!そのため、両親思いの魏は、万年エキストラだった自分が今、主役として晴れの撮影の場にあることを見せるべく、両親を撮影現場に招待することに。息子の晴れの姿を見た両親はもちろん大喜びだ。しかし、撮影現場の関係者が増えるほどミランとB監督の思惑は怪しくなってくるし、Aだってバカではない。魏は絶対に獲物を外すことのない“伝説の殺し屋”ではなく、ただの万年エキストラ!そう見破ったAは再びB監督とミランを締め上げ、魏の追放と本物の伝説の殺し屋Xを連れてくることを厳命したから、もはやミランとB監督の妙策もこれまで・・・?そうになると、いやでも魏を主役から降ろさなければならぬが、「映画製作の資金が尽きたため、主役としての撮影は今日まで」と魏に告げる辛い役目を引き受けたのはミランだ。

楠木正成と長男・楠木正行との、決戦を前にしての“桜井の別れ”は涙を誘う名シーンだが、ミランが魏に主役解任を告げるシークエンスも、コメディながら見事な涙の別れのシーンになっているので、それに注目。50作も続いた山田洋次監督の『男はつらいよ』シリーズはコメディだが、随所に泣かせるシーンを配置していた。本作は見事にそれを踏襲しているので、それに注目！

■この役者ならミュージカル風も怪演だが、こりゃパクリ？■

今年8月3日のペロシ下院議長の台湾訪問を契機として、急激に米中関係が悪化したのが、それは映画の世界でも同じ。しかし、映画の都ハリウッドといえども、近時巨大な市場に成長した中国映画を無視することはできないため、俳優面や出演面でコラボを組むケースは多い。宋王朝の時代、黒色火薬を求めて万里の長城にたどり着いたヨーロッパの傭兵に、ハリウッド俳優、マット・デイモンを起用した奇想天外な映画が、張藝謀（チャン・イーモウ）監督の『グレートウォール』（16年）『シネマ44』（16頁）だった。同作に見る米中融合の深化（？）にはビックリさせられたが、同作に代表されるように資金面、俳優面における米中映画界の融合は着実に進んでいる。しかし、本作にはミュージカルファンなら誰もがよく知っている、ジーン・ケリー監督の『雨に唄えば』（52年）と全く同じシーンが出てくるので、それに注目！

劇中劇の主役になっている魏のダンス演技はさすがだから、その“怪演”は褒めてあげたいが、このシークエンスはハリウッドの許諾を得ているの？それともパクリ・・・？

2022（令和4）年12月5日記

「2022大阪・中国映画週間」開

2022年11月11日
ウェスティンホテル大阪にて



耿忠さんの司会で、坂和も
薛劍大阪総領事、滝田洋二郎監督と対談



挨拶する総領事の薛劍さん



8名でのくす玉割りにも参加

『日本と中国』2272 (2023年1月1日)



CMO 生人 中国映画産業促進委員会
 監訳：藤文雄 (シン・ワエンユン)
 脚本：藤文雄 (シン・ワエンユン)
 キースト：尾藤 (マ・ウエイ)
 演出：尾藤 (マ・ウエイ)、陳明興 (チェン・ミンギョウ)、周大勇 (チウ・ダウイ)
 ヨフ)、藤子倫 (フツアン・フエイルン)
 ジャパン・コムデイ
 上映時間：109分
 中国映画週間上映作品

三谷幸喜脚本のNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』は人物像も会話劇もイメージだが、『サ・マシクアロ』はさすが三谷映画と絶賞！それは、騙す男、騙される男、怒る女、伝説の殺し屋のキャラが際立ち、卓抜した脚本の中で真剣な演技が輝きを誘った。そんな三谷作品に敬意を込めた『トウ・クル・トゥ・キル』(这个杀手不太冷静)が上映！

劇中劇は面白い。それは、同じ三谷映画『笑の天才』や『まなみの神様』『玉の男』等で証明されたが、万年エキストラの魏成功が劇中劇の主演が務まるの？ 隠しカメラで自由演技の条件で魏を主演の殺し屋に起用したのは某監督とその姉。殺しの標的はギャングのボスだが、それは一体なぜ？ 出合いの局面では魏の過剰演技が目立つが、これが意外な威嚇効果を生み、魏はまんまとボスの配下に。初任務となるエキストラの取引に通訳として登場し

東京に続き 11 月、「2022 大阪・中国映画週間」を初開催！ 劇中劇は面白い！邦題と原題の意味をしっかりと！！

『ゼロ一服と機関銃』の薬師丸ひび子を彷彿させる、機関銃のぶつ放し演技が大書調。これには思わず観客も一緒に快感！魏の演技の真剣味が増す毎に観客席から歓声が！

面無表情の魏が情れ姿を見せるべく両親を招くあたりから魏の化けの皮が剥け始める。劇中劇の嘘がバレるのも時間の罠だ。ならば撮影を中止し、魏を解雇するのが誠意。監督姉弟はそれを断行した。だが、さて魏は、コメディは観客を笑わせればよいだけではなく、泣かせる場面も不可欠。それが50作も続いた山田洋次監督の『男はつらいよ』の常識だから本作ラストに抱けてそれをしっかりと味わいたい。近時、政治・軍事面で米中問題が激化中だが、映画界では資金・俳優面で融合中。シン・ケリーの『雨に唄えば』を劇中劇で見事に演じる魏に注目！これがバカリめどろみはともかく、コメディ映画ならこんな米中融合も可以！

熱血弁護士 坂和章平 中国映画を語る (70)



(さわわ・しちぞう)
 1949年愛媛県松山市生まれ。大阪大学法学部。郵船関連に関わる訴訟数多く手がけ、日本郵船監事会元川尻。歴任日本弁護士会「義務弁護士」を受賞。昭和約中映画産業(2004年)は二つのマシキアロの脚本家。映画を新マシキアロをはじめ映画に関する著書多数。公社 日本友好協会 参与 NPO 英大阪府 日本友好協会理事